

中学校第1学年音楽科学習指導案

指導者 三上 駒貴

1 題材名

映像にふさわしいBGMをつくろう

2 題材の目標

映像から表現したいイメージをもち、打楽器や旋律楽器の特徴を感じ取って、反復や変化を工夫しながらBGM（バック・グラウンド・ミュージック）をつくる。

3 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領解説音楽編（平成20年9月 文部科学省）の「A表現」（3）「創作イ」の指導事項に「表現したいイメージをもち」と明記され、創作活動において、生徒が自己の内面に生じたイメージをもちながら学習を展開することの重要性が示されている。

本題材では、映像からイメージを膨らませて、映像にふさわしいモチーフとなる旋律をつくる。その上で、主に打楽器とアルトリコーダーや箏などの音素材の特徴を感じ取り、グループごとに思考錯誤しながら、モチーフの旋律を反復、変化させて工夫することで、本題材が目指す力が育つであろうと考えた。

(2) 生徒の実態（計28人）

音楽に関するアンケートは、下記の結果となった。

（意識調査）

- | |
|--|
| ① あなたは普段の生活で、目（ものを見る）と耳（話を聞く）のどちらを意識的に使っていますか？
・目 10人 ・耳 8人 ・わからない 10人 |
| ② テレビやCM、映画等を観る時に、主に印象に残るのはどちらですか？
・映像（画面） 4人 ・音楽（BGM） 11人 ・両方 13人 |
| ③ なぜ②でそう答えたのか、理由を書いてください。
（映像派）・映像に興味がある ・動画や小説に結び付ける ・自分の好みの映像を記憶しやすい
（音楽派）・自分がまた聴きたいと思うから ・好きなアーティストの曲だから ・リズムが覚えやすい
（両方）・映像と音楽のインパクトが共に合っているから |
| ④ あなたはこれまでに、映像からイメージしたことを基に音楽をつくった経験はありますか？
・ある 2人 ・ない 11人 ・わからない 15人 |
| ⑤ いろいろな打楽器や旋律楽器の音色や奏法について、知っていますか？
・知っている 3人 ・あまり知らない 12人 ・知らない 13人 |

本学級は全体的に明るい雰囲気、自らの意見を積極的に発表できる生徒が多い。そのため、先日行われた校内合唱コンクールでもそれぞれが意欲的に声を出し、合唱を盛り上げることができた。一方で、曲を創作するなどの経験は少ない現状が分かった。また、今回扱う音素材である打楽器や旋律楽器についての知識および技能は十分とはいえない。

(3) 指導観

本題材では、生徒の学校生活などの様子を写した映像からイメージを膨らませて、グループごとに表したイメージを伝え合って映像のタイトルを決定し、グループの生徒一人ひとりが映像にふさわしいモチーフとなる2小節の短い旋律をつくる。その上で、主に打楽器と旋律楽器の音素材の特徴を感じ取って、グループごとに思考錯誤しながら、モチーフの誠意率を反復、変化させて工夫する活動を行う。その際、音素材として扱う打楽器と旋律楽器の構造や基本的な奏法を指導し、併せてマレットなどの打つものを変えたり、楽器の持ち方や奏法を変えたりすることで、音色が変化することを感じ取れるよう工夫する。これらの知識・技能を基にして、グループで映像にふさわしいBGMをつくる活動をとって、ねらいに迫りたいと考えている。

4 題材の評価規準および学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
歌唱			
器楽			
創作	○	○	○
鑑賞			
題材の評価規準	映像から表現したいイメージをもち、打楽器と旋律楽器の特徴を感じ取って、反復や変化を工夫することに関心をもち、BGMをつくる学習に進んで取り組もうとしている。	映像から表現したいイメージをもち、打楽器と旋律楽器の特徴を感じ取って、反復や変化を工夫しながら、どのようにBGMをつくるかについて思いや意図をもっている。	映像から表現したいイメージをもち、打楽器と旋律楽器の特徴を感じ取って、反復や変化を工夫しながらBGMをつくっている。
学習活動における具体的評価規準	①映像からイメージをわかせたり、音色や旋律の特徴を感じ取ったりして、映像がどのように変化するか興味関心をもち、取り組んでいる。	①映像から表現したいイメージを共有するためのタイトルにふさわしいBGMをつくるグループ活動において、打楽器と旋律楽器の中から楽器と奏法（音色）を選んだり、反復や変化を工夫したりすることを、ワークシートに記譜している。	①映像からイメージした曲に反復や変化を用いて、打楽器と旋律楽器の音色の特徴を生かして創作活動を行っている。

5 学習活動と評価の計画（4時間扱い）

次	ねらい	主な学習内容	[共通事項]	具体的評価規準
第一次 (1)	BGMの違いによって映像の印象が変化して見えることを感じ取る。	○ひとつの映像に異なるBGMを合わせて聴き比べ、映像がどのように変化して見えるかを話し合う。 ○生徒の学校生活などの様子を写した映像からイメージを膨らませて、グループごとに表したいイメージを伝え合って映像のタイトルを決定する。	音色 旋律	アー①
第二次 (3) 本時は 第2時	映像から表現したいイメージをもち、打楽器と旋律楽器の特徴を感じ取って、反復や変化を工夫しながらBGM（バック・グラウンド・ミュージック）をつくる。	○グループの生徒一人ひとりが映像にふさわしいモチーフとなる2小節の短い旋律をつくる。 ○グループ内で、各自の旋律を紹介し合って、最もふさわしい旋律を決めてモチーフにする。 ○反復と変化によって、モチーフが音楽に構成されていく過程を知る。 ○打楽器と旋律楽器の構造と奏法について知る。 ○グループで反復や変化を工夫しながらBGMをつくる。 ○グループで発表会を行う。	音色 旋律 強弱 速度 反復 変化	イー① ウー①

6 本時の学習（第2次，第2時）

(1) ねらい

- ・映像から表現したいイメージをもち，打楽器と旋律楽器の特徴を感じ取って，反復や変化を工夫しながらBGM（バック・グラウンド・ミュージック）をつくる。

(2) 準備・資料

プロジェクター，パソコン，スクリーン，ホワイトボード，楽器（打楽器，箏など），ワークシート

(3) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆学習活動における具体の評価基準）
<p>1 各グループで選んだモチーフの楽譜とつくろうとしているBGMのタイトルをホワイトボードに提示しておき，紹介する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。 映像にふさわしいBGMをつくろう</p> <p>3 グループでBGMをつくる。 ①モチーフを反復させたり変化させたりして，映像にふさわしいBGMをつくる。 ②打楽器や旋律楽器の中から，映像にふさわしい楽器と奏法（音色）を試しながら選んでいく。 ③楽器の分担を決め，記譜する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の組み合わせが，意外と難しい。 ・組み合わせてみて，音色の合う楽器と合わない楽器があることが分かった。 ・モチーフを繰り返すだけなのに，速度や表現の記号を変えるだけで，全然イメージが違う曲になるのが面白い。 </div> <p>4 中間発表で，相互に聴き合う。</p> <p>5 本時のまとめを行う。 (1) 自己評価を行う。 (2) 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○前時の学習内容を振り返る。</p> <p>○教師自作のモチーフを例題として，前時に学習した打楽器の奏法および反復や変化を使い，モチーフをまとまりのある音楽につくる過程を実際に実演し，グループ活動への意欲を高める。</p> <p>○映像と教師がつくったBGMを合わせた感想を述べさせる。</p> <p>○ワークシートを用いて，記譜の仕方について説明する。</p> <p>○創作する曲の小節数は8小節程度とする。</p> <p>○強弱記号を一覧表にして提示しておく。 (例) pp, p, mp, mf, f, ff</p> <p>○速度を表す言葉の例を提示しておく。 (例) だんだん速く，だんだん遅く 速く，とても速く 遅く，とても遅く 急いで，せかせか，ゆっくり，のんびり 等</p> <p>○奏法（音色）を表す言葉の例を提示しておく。 (例) なめらかに，弾むように 高い音，低い音 あたたかい音，冷たい音 等</p> <p>◆映像から表現したいイメージを共有するためのタイトルにふさわしいBGMをつくるグループ活動において，打楽器と旋律楽器の中から楽器と奏法（音色）を選んだり，工夫したりしたことを，ワークシートに記譜している。《イー①》</p> <p>○グループごとに映像に合わせてつくったBGMを演奏する。</p> <p>○良かったところ，面白かったところを述べ合う。</p> <p>○自己評価欄に記入して本時の反省をするとともに，次時の学習に対する課題を確認する。</p>

7 観点別評価の生かし方

【音楽的な感受や表現の工夫】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
<p>イー①</p> <p>映像から表現したいイメージを共有するためのタイトルにふさわしいBGMをつくるグループ活動において、打楽器と旋律楽器の中から使用楽器と奏法（音色）を選んだり、反復や変化を工夫したりしたことを、ワークシートに記譜している。</p>	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱記号，速度と奏法を表す言葉を楽譜に記入するワークシートの記載内容及びグループ活動中の様子や会話に観察から見取る。 <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱記号，速度と奏法を表す言葉をどのように記入すればよいか分からない生徒に対し，その曲をどのように感じ表現していきたいのかを自分なりの簡単な言葉で表し，記号などに結び付けられるよう支援する。 <p>【Aと判断するキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動での積極的な発言，活動。 ・作品発表会において，工夫点をしっかりと意識した演奏ができる。